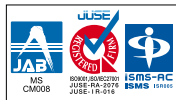


第69期 決算のご報告

2020年8月21日～2021年8月20日



本社・工場



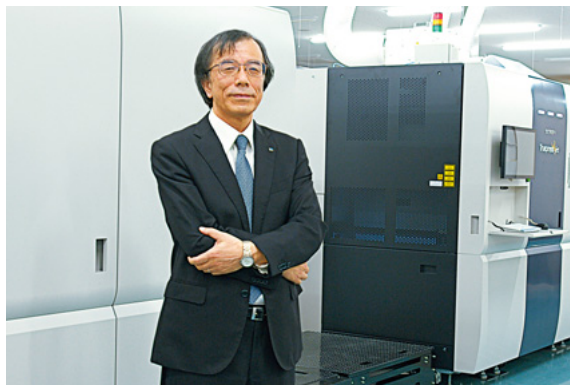
 福島印刷株式会社

〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地
TEL(076)267-5111(代) FAX(076)267-8065
URL <https://www.fuku.co.jp/>

福島印刷株式会社

証券コード 7870

株主のみなさまへ



しもはた まなぶ
代表取締役会長兼社長 下島 学

私たちは「コミュニケーション適切化」のご支援を大切なミッションとして、顧客体験の手段や接点の多様化が進展するなか「メーリングサービス革新」も技術革新とクリエイティブな創造性の両面から可能性を追求してゆきます。変化に挑戦し「期待され続ける」継続的な改善と信頼の蓄積に努めてまいります。

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第69期(2020年8月21日から2021年8月20日まで)の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に対する各種政策の効果もあり、持ち直しの動きが見られるものの、依然

として厳しい状況にあります。今後も国内外の新型コロナウイルス感染症の動向、国内景気への影響など、先行きは依然として不透明な状況にあります。

印刷業界におきましては、依然としてWeb化等による印刷需要の減少が続くなか、競争激化による受注価格下落の影響が顕在化するなど、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は引き続き最新鋭の印刷機等設備導入により生産体制の強化を図るとともに、DP(データプリント)サービスの製品開発やサービスの充実、販売マネジメントの強化による創注や原価構造改善に積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当事業年度の売上高は前事業年度を8億20百万円(10.6%)上回る85億51百万円となりました。また、利益面においては、営業利益が5億86百万円(前事業年度比181.2%増)、経常利益が6億円(前事業年度比176.3%増)、当期純利益が4億7百万円(前事業年度比191.8%増)となりました。

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により国内外の経済環境が急速に悪化するなど、景気の先行きには予断を許さない状況が続いております。

従来からのWeb化等による印刷需要の減少傾向に加えコロナ禍の影響もあり、価格競争の激化や原材料の値上げも懸念されるなど、引き続き取り巻く環境は厳しいものと予想されます。

一方で新型コロナウイルス感染症によりライフスタイルや社会情勢の変化が予想され、新たなサービスへの市場の期待も高まってくると予想されます。

このような状況を踏まえ、当社としては、引き続き最新鋭の印刷機等設備導入により生産体制の強化を図るとともに、「さいたまサテライト」の有効活用や、独自技術によるDP(データプリント)を中心としたサービスを強化し、さらなる差別化を推進してまいります。当社サービスの充実・拡大のための技術開発とその市場創造に注力し、顧客のBPO(ビジネスプロセスアウト

ソーシング)ニーズのさらなる取り込みを目指します。また、受注のベースとなる品質保証と情報セキュリティ体制についても、より一層の強化を図ってまいります。

営業部門では引き続き大都市圏での販売力強化とともに、強力な商品サービスの創造、販売マネジメントと顧客管理技術の高度化に取り組めます。

設計部門では、生産前部門の生産性向上を図ると同時に、より一層のコストダウンと顧客サービス向上のための情報設計力、運用力強化の取り組みを継続いたします。

さらに、人材育成が重要課題の一つであるとの認識に基づき、メーリングサービスの拡大に不可欠なIT系知識を蓄えるための資格取得支援制度を全社展開するなど、市場の要求に応える人材の育成に努めてまいります。

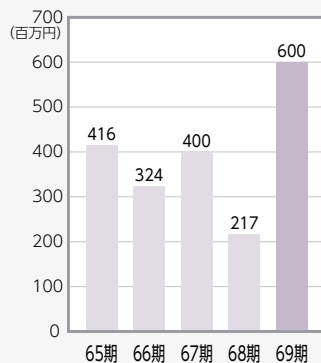
また、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大を受け、代表取締役会長兼社長を事務局長とする「緊急処置事務局」を設置し対策を講じてまいりました。引き続き事業継続に最善を尽くしてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

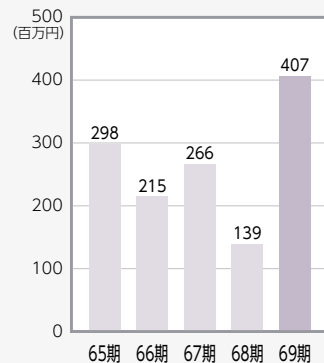
■売上高



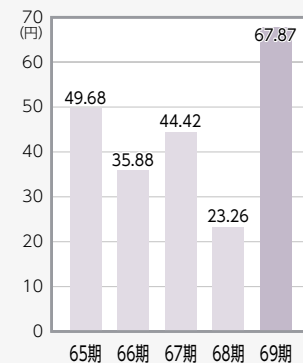
■経常利益



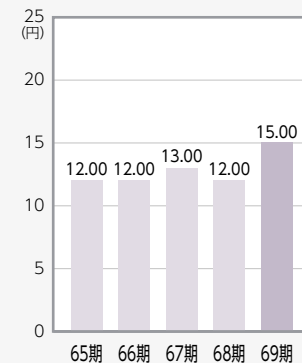
■当期純利益



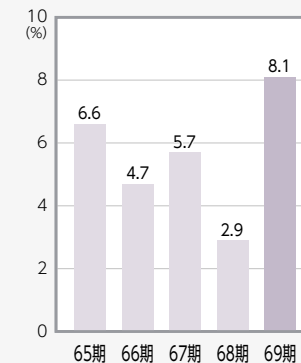
■1株当たり当期純利益



■1株当たり配当金

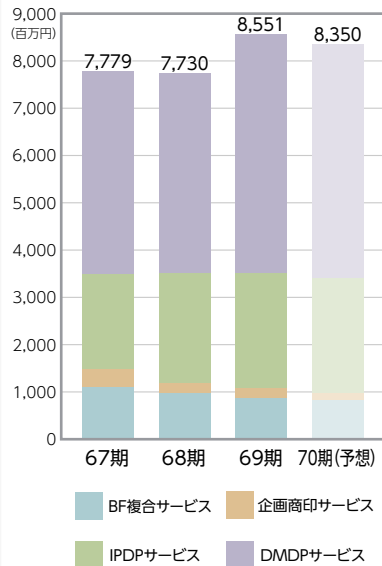


■自己資本利益率(ROE)



製品分野別売上高

製品分野別売上高



福島印刷の

新4分野による複合サービスの実現

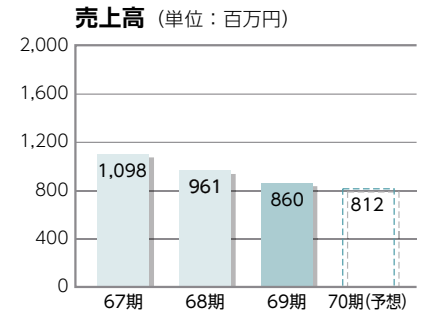
当社は情報発信のパートナーとして、「コミュニケーション エイジェント」という新しいビジネスモデルを目指しています。お客様の情報発信は多様で、その手段、ツールにも様々な選択肢があります。そこからお客様視点に立ち多様な可能性を求めて、4つのサービス形態を整備拡張しています。

BF(ビジネスフォーム)複合サービス

- コンピュータ用帳票
- 一般帳票
- シール・ラベル など



BF複合サービスは、コンピュータ用帳票に代表される機械加工を伴った帳票印刷分野です。Web化に伴うペーパーレス化が進み、市場全体での需要量の減少傾向が続いていることから、売上高は前事業年度を1億円(10.5%)下回る8億60百万円となりました。

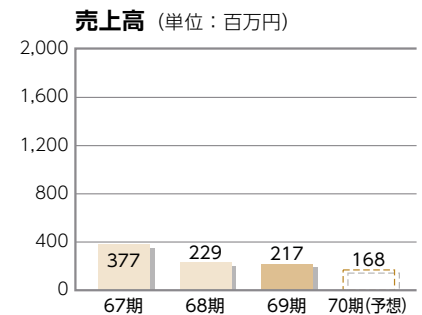


企画商印サービス

- 広告宣伝用印刷
- マニュアル印刷 など



企画商印サービスは、パンフレットやカタログに代表されるビジュアル印刷物の分野です。主要DPサービスとの相乗効果が見込めない頁・文字物印刷からの撤退影響もあり、売上高は前事業年度を11百万円(5.1%)下回る2億17百万円となりました。

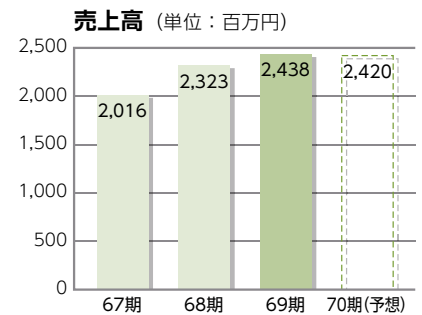


IPDP (インフォメーションプロセッシング データプリント) サービス

- 請求書等発行処理受託
- 各種行政サービス印字処理
- 各種通知案内印字処理受託 など



IPDPサービスは、企業が定期的に発送する請求書や官公庁が住民に発送する各種通知書など、事務通知書類のデータプリントから、封入封緘などの後処理、メール発送までを代行するサービス分野です。コロナ禍におきましても必要となる通知物が堅調に推移し、売上高は前事業年度を1億14百万円(4.9%)上回る24億38百万円となりました。

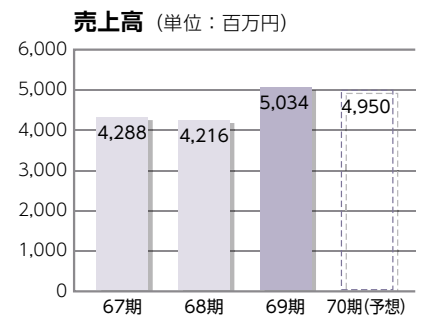


DMDP (ダイレクトメール データプリント) サービス

- ダイレクトメール
- ダイレクトメール処理受託
- データベースオンデマンド印刷 など



DMDPサービスは、お客様の顧客データベースが進化するなかで、有力な販促物を提供するサービス分野として発展しました。ペーパーレスの潮流においてもデジタル印刷技術を駆使した次世代の紙メディアの開発価値を評価され、売上高は前事業年度を8億18百万円(19.4%)上回る50億34百万円となりました。



当社「ならでは」の取り組み

メーリングサービスの拡大

■「Fusion X」3台目増設で封書案件の生産体制強化



主力封入封緘機「Fusion X(フュージョンクロス)」を増設し、2021年3月より稼働を開始しました。封書パックの生産量増加と、春～夏にかけて生産が集中する自治体様徴税案件の受注拡大を背景に、封書案件の受入体制強化のため増設を決定しました。本社工場計3台の「Fusion X」を駆使し、今年2月末から約半年間に渡り継続的に発生した大型案件も無事納品することができました。

2016年11月に1台目の「Fusion X」が稼働して以来、作業者のノウハウ蓄積や現場の改善も確実に進んでおります。例えば何らかのエラーにより機械が一時的に停止してしまう「チョコ停」が頻繁に起こっていましたが、エラー現象を分析し、細かい設定調整を行ったり、営業・設計部門と連携して封入物の仕様変更(紙厚変更等)を行うことでエラー回数を減少させ、よりスムーズに生産できる体制を整えました。



「Fusion X」3台を設置したメールサービス室

さらに「Fusion X」3台の同時稼働・安定生産に備え、案件ごとに異なる「レシピ」と呼ばれる詳細設定を3台で共有できるよう、当機搭載システムのバージョン調整を行いました。これにより生産開始前の設定時間の削減と、生産計画への柔軟な対応が期待できます。

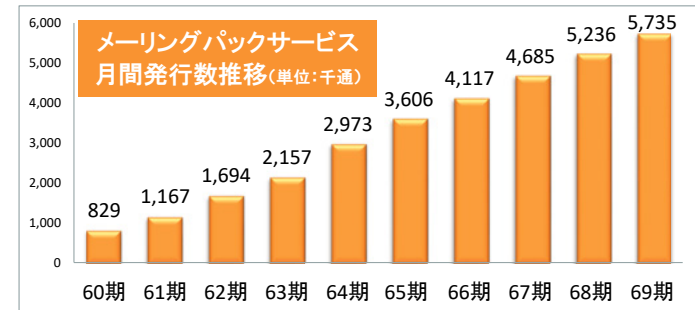
設備増設、その後… 高精細ロール式インクジェット印刷機 Truepress Jet520HD

更なる受注拡大に備え、段取り時間の削減に取り組んでおります。自動ノズルチェック機能の実装により、予備紙ゼロで本番印刷を開始できる「ロケットスタート」の運用が一部仕様でスタートしました。機器ベンダーの協力を得ながら、自動ノズルチェック機能による判定結果に対して、作業者のチェック結果との差異分析を行うといった技術研究を重ね、ロケットスタート運用を全仕様に適用することが目下の目標です。



■「メーリングパックサービス」順調に拡大

メーリングパックサービスは、独自のデジタル処理技術により複数企画・複数会社の通知物を取りまとめ、印刷・加工する当社ならではのサービスです。



当社の主力サービスとして毎年110%ほどの成長を維持しており、当期の月間発行数は平均570万通を超えました。なかでも本格導入から6年目となる封書パックは、毎年平均130%以上の成長を維持し順調に拡大しております。

拡大の背景は、プラットフォームとして「はがき」「封書」「大判」といった豊富なラインアップの通知物・DMをまとめて発注できるサービスがお客様のニーズにフィットしたと考えております。また、技術研究の積み重ねによる高品質な印刷の実現が挙げられます。今後お客様が求めるニーズを先取りし、さらなる改善を図ってまいります。

■用紙廃棄量を削減でSDGsに貢献

コスト削減だけでなく、環境問題への配慮から歩留まり改善活動を強化し、用紙廃棄量の削減を実現しました。歩留まりとは、原料や素材の投入量に対し実際に製品となった数量の割合を意味します。設計部門が中心となり、本番稼働前の機械調整や用紙交換のために必要となる予備紙量の見直しを実施する等、歩留まり改善の強化活動がスタートしました。

最も効果の大きかった取組が再処理用予備紙の削減です。ダイレクトメールは投函日遵守が求められるため、納期遅延リスクを回避すべく損紙発生に備えた再処理用の予備を設計に組み入れていましたが、主要DMラインでこれを廃止し「0」といたしました。実際に損紙が発生した際は、関連工程同士が連携強化しリカバリラインを走らせることで、歩留まり向上と納期対応を両立させています。

再処理用予備紙「0」取組を通じて巻芯部の残紙廃棄量を200t削減するなど、活動を積み重ねた結果、歩留まりが前期比2.9ポイント改善し用紙廃棄量も前期比96%に抑えることができました。

当社「ならでは」の取り組み

働き方改革取組

■有給休暇5日以上取得 全社員達成

法令により、有給休暇を10日以上付与される者が1年以内に5日以上有給休暇を取得する定めを受け、安全衛生環境委員会が中心となり、計画的な有給休暇取得の意識付けを行った結果、当期は該当社員全員が年5日以上有給休暇を取得しました。

■女性活躍推進

勤務時間のインターバル制や超勤時間の削減活動を通じ、時間制約のある社員にも働きやすい環境を整え、女性の活躍を積極的に推進してまいりました。中核を担う女性社員の割合が増えており、中でも職場の監督職であるリーダー役割が前期の17名から当期は26名まで増加しました。

■テレワークを制度化

昨年度より新型コロナウイルス感染症対策として、都市圏営業部を中心にテレワークを実施してきましたが、この度新たに「テレワーク勤務規則」を整備し、制度導入いたしました。これは感染症対策だけでなく、多様化する生活環境の中で、社員が希望すれば職場の状況や職種を考慮したうえで、テレワーク勤務を選択できるというもので、働き方改革を後押しする福利厚生制度と位置付けています。

■Web会議の活用

新型コロナウイルス感染拡大を受け、都市圏営業部を中心に8割以上の面談がWeb会議に置き換わっております。遠隔であることが障害ではなくなった今、本社の生産部門のメンバーがお客様との面談にオンラインで参加する機会も増えました。Web会議環境の整備を進めることで、より積極的にお客様のお役立ちの場面を増やしていくよう活動しております。

会社ホームページをリニューアルしました



新たなホームページのトップ画面

ホームページの全面リニューアルを行いました。スマートフォンからも快適にご利用いただけるよう、デザインや掲載写真の見直しを行いましたので是非ご覧ください。



人材育成の取り組み

■生産支援体制でネットワーク組織化に加速

製造部門の繁忙期に適切なリソースを確保するため、事前に訓練を行い一定基準のスキルを有していると認定を受けたメンバーが、要請に応じて他部署支援を行う生産支援体制の運用を開始いたしました。

支援者は部署を横断した様々なメンバーで構成されています。特定部署への超勤集中を回避するのみならず、生産支援の場は、通常業務では直接係わりがなかった従業員同士の交流機会となり、他部署理解や自部署の業務改善のきっかけにもなっています。



生産支援の様子

■教育投資制度 資格合格者の声

生涯学習の後押しを主たる目的とし、2019年より新資格取得制度を導入いたしました。以下では、新制度で新たに指定資格に追加された「日本ディープラーニング協会認定試験G(ジェネラリスト)検定」の合格者インタビューをお届けします。本資格は、AI技術をビジネスに活用する知識があるかどうかを問う資格です。



一般社団法人日本ディープラーニング協会 G検定 合格
企画制作部 制作環境開発課 川本 健

—なぜこの試験にチャレンジしようと思いましたか？

例えば、電気、コンピュータ、インターネット。それぞれがない時代も確かに存在しましたが、それなしで現在の社会を回すことは想像もできません。大きさではなく、このAI界隈の技術は「世界を変える力」です。企業価値を高めるためにこれを活用するスキルが必須であるなら、まずは自分が勉強して証明することで、後進に広めていきたいと考えました。

—学習したことを、今後どのように活用したいですか？

新しい業務環境を研究・開発していくことがミッションなので、AIのできることを知っているのといないのでは天地の開きがあります。前工程(印刷用デザインドキュメントの制作等)に限らず、当社のサービス全域で活用していきたいと考えています。

—一次はどのような資格にチャレンジしたいですか？

ひとまず「ジェネラリスト」を名乗れるレベルの基礎知識や活用方法を学んだところなので、これを実際に活用して成果を出すことに果敢にチャレンジしていきます。

財務諸表

貸借対照表

科目	前事業年度 (2020年8月20日)	当事業年度 (2021年8月20日)
[資産の部]		
流動資産	2,547,886	3,017,232
現金及び預金	969,145	1,358,545
受取手形	34,848	23,832
電子記録債権	254,084	415,835
売掛金	929,158	904,109
製品	45,400	45,689
半製品	54,045	48,383
仕掛品	139,800	111,163
原材料	58,248	57,784
貯蔵品	23,064	29,847
未収還付法人税等	3,104	—
その他	37,426	22,472
貸倒引当金	△ 442	△ 431
固定資産	4,634,914	4,633,198
有形固定資産	4,129,531	4,183,310
建物	1,228,256	1,221,504
構築物	14,789	13,206
機械及び装置	1,304,479	1,314,594
車輛運搬具	2,912	1,563
工具器具備品	109,859	135,079
土地	965,106	965,106
リース資産	494,009	522,136
建設仮勘定	10,120	10,120
無形固定資産	196,498	158,456
ソフトウェア	187,965	151,706
リース資産	4,114	2,332
その他	4,417	4,417
投資その他の資産	308,884	291,431
投資有価証券	149,230	119,104
出資金	3,570	3,570
破産・更生債権等	1,460	1,415
繰延税金資産	120,412	134,075
その他	35,671	34,681
貸倒引当金	△ 1,460	△ 1,415
資産合計	7,182,800	7,650,431

単位:千円

科目	前事業年度 (2020年8月20日)	当事業年度 (2021年8月20日)
[負債の部]		
流動負債	1,527,042	1,894,741
買掛金	295,665	223,801
短期借入金	320,000	370,000
1年内返済予定の長期借入金	20,040	220,040
リース債務	212,014	166,456
未払金	253,995	257,942
未払費用	279,962	289,492
未払法人税等	15,219	185,012
賞与引当金	92,359	110,238
預り金	24,848	55,722
役員賞与引当金	11,000	16,000
その他	1,937	34
固定負債	783,745	574,718
長期借入金	234,870	14,830
リース債務	339,341	414,127
退職給付引当金	154,953	91,180
長期未払金	40,685	40,685
資産除去債務	13,895	13,895
負債合計	2,310,787	2,469,460
[純資産の部]		
株主資本	4,819,931	5,155,132
資本金	460,000	460,000
資本剰余金	285,200	285,200
資本準備金	285,200	285,200
利益剰余金	4,074,844	4,410,060
利益準備金	96,200	96,200
その他利益剰余金	3,978,644	4,313,860
固定資産圧縮積立金	200,999	200,999
別途積立金	2,505,000	2,505,000
繰越利益剰余金	1,272,645	1,607,861
自己株式	△ 113	△ 128
評価・換算差額等	52,082	25,838
その他有価証券評価差額金	52,082	25,838
純資産合計	4,872,013	5,180,970
負債及び純資産合計	7,182,800	7,650,431

(記載金額は千円未満切捨)

損益計算書

単位:千円

科目	前事業年度 (自 2019年8月21日 至 2020年8月20日)	当事業年度 (自 2020年8月21日 至 2021年8月20日)
売上高	7,730,657	8,551,610
売上原価	6,152,982	6,588,749
売上総利益	1,577,674	1,962,861
販売費及び一般管理費	1,369,119	1,376,469
営業利益	208,554	586,392
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,586	2,800
作業くず売却益	10,205	9,437
その他の	7,702	13,955
営業外費用		
支払利息	11,545	11,614
その他の	8	—
経常利益	217,494	600,972
特別利益	—	—
特別損失		
固定資産除却損	7,084	5,381
投資有価証券評価損	391	—
	7,475	5,381
税引前当期純利益	210,019	595,590
法人税、住民税及び事業税	63,200	198,000
法人税等調整額	7,266	△ 9,621
当期純利益	139,553	407,211

(記載金額は千円未満切捨)

財務諸表

株主資本等変動計算書

(2020年8月21日～2021年8月20日)

単位:千円

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等合計
				その他利益剰余金							
				固定資産 圧縮積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金					
2020年8月21日残高	460,000	285,200	96,200	200,999	2,505,000	1,272,645	△ 113	4,819,931	52,082	52,082	4,872,013
事業年度中の変動額											
剰余金の配当						△ 71,995		△ 71,995			△ 71,995
当期純利益					407,211			407,211			407,211
自己株式の取得							△ 15	△ 15			△ 15
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)								-	△ 26,244	△ 26,244	△ 26,244
事業年度中の変動額合計					335,216		△ 15	335,201	△ 26,244	△ 26,244	308,956
2021年8月20日残高	460,000	285,200	96,200	200,999	2,505,000	1,607,861	△ 128	5,155,132	25,838	25,838	5,180,970

(記載金額は千円未満切捨)

キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	前事業年度 (自 2019年8月21日 至 2020年8月20日)	当事業年度 (自 2020年8月21日 至 2021年8月20日)
	営業活動によるキャッシュ・フロー	1,194,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 364,784	△ 559,520
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 460,017	△ 275,830
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	369,799	390,599
現金及び現金同等物の期首残高	541,746	911,545
現金及び現金同等物の期末残高	911,545	1,302,145

(記載金額は千円未満切捨)

株式の情報

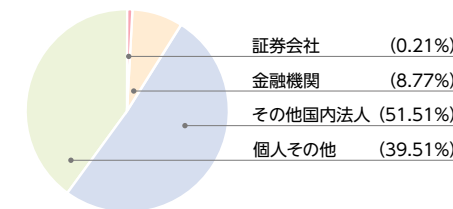
株式の状況

- ①発行可能株式総数 24,000,000株
- ②発行済株式の総数 6,000,000株
- ③株主数 1,909名
- ④大株主

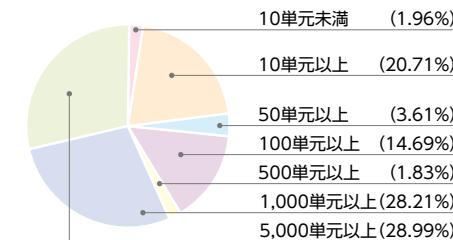
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	出資比率(%)
株式会社アジリスト	1,739	28.99
名古屋中小企業投資育成株式会社	473	7.89
北国総合リース株式会社	304	5.07
株式会社北国銀行	280	4.67
福島印刷従業員持株会	275	4.59
株式会社グイトコーポレーション	130	2.17
山崎久子	120	2.00
三菱王子紙販売株式会社	110	1.83
三井住友信託銀行株式会社	60	1.00
三菱製紙株式会社	50	0.83

株式の分布状況

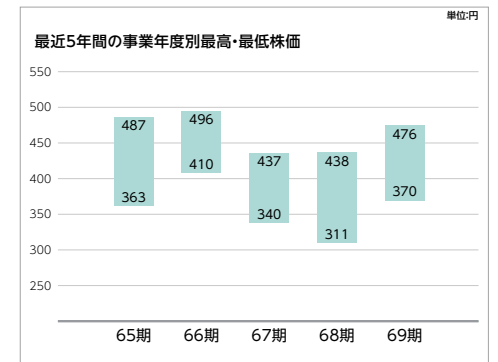
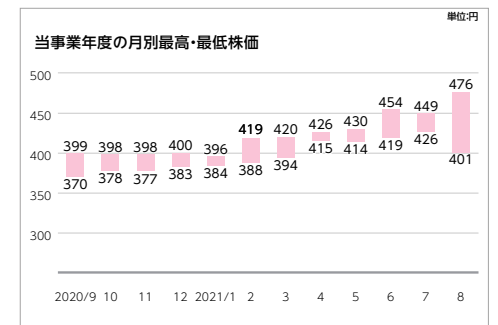
所有者別(株式数比率)



所有単元数別(株式数比率)



株価の推移



(注)名古屋証券取引所における高値・安値を表示しております。当事業年度の月別最高・最低株価は、毎月1日より月末のものであります。

会社情報



(上段、左より) 木戸、福島、平野、中村、竹村
(下段、左より) 松井、下島、松谷、堺

役員 (2021年11月18日現在)

代表取締役会長兼社長	しも 下	はた 島	まなぶ 学	取締役	ふく 福	しま 島	しん 慎	いち 一	ろう 郎
常務取締役	まつ 松	たに 谷	ゆたか 裕	取締役	き 木	ど 戸	まさ 正	ひろ 裕	
取締役	まつ 松	い 井	むつ 睦	常勤監査役	ひら 平	の 野	のぶ 信	あき 昭	
取締役	さかい 堺	よし 嘉	ひろ 弘	監査役	なか 中	むら 村	しゅん 俊	すけ 介	
				監査役	たけ 竹	むら 村	ひろ 裕	き 樹	

会社の概要 (2021年11月18日現在)

商号	福島印刷株式会社
英文名	FUKUSHIMA PRINTING CO.,LTD.
本店所在地	〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地 TEL (076) 267-5111 (代)
設立	昭和27年9月10日
資本金	4億6,000万円
従業員数	458名
事業所	本社及び工場 金沢市佐奇森町ル6番地 東京営業部 東京都千代田区鍛冶町1丁目5番7号 江原ビルディング9F 西日本営業部 大阪市淀川区宮原5丁目1番28号 新大阪八千代ビル別館8F 富山営業所 富山市上袋708番地1 福井営業所 福井市和田東2丁目1718番地 さいたまサテライト さいたま市桜区町谷1-4-1 株式会社廣濟堂さいたま工場内

株式についてのご案内

事業年度 8月21日から翌年8月20日まで
 定時株主総会 11月
 基準日 定時株主総会 8月20日
 期末配当 8月20日
 中間配当 2月20日
 その他必要があるときは、予め公告して定めた日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元株式数 100株
 上場証券取引所 名古屋証券取引所
 公告方法 電子公告により当社ホームページ (<https://www.fuku.co.jp/>) に掲載いたします。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とします。

株主優待制度 8月20日基準日現在1,000株以上の株主を対象に、自社指定の株主優待を、ご希望に応じてお選びいただけます。

2021年11月発送予定



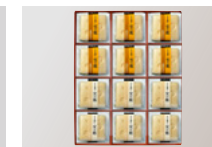
金沢五郎島金時



四十萬谷本舗 特選詰合せ



能登ワインセット



加賀麩不室屋 宝の麩詰合せ